

公開
資料3

第 4 0 1 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和8年5月29日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
1. 委員会関係						
提案 1	(分野別委員会) (1)委員会委員の決定 (追加 1 件)	第一部部長	4	分野別委員会における委員会委員を決定する必要があるため。	第一部部長	内規12条第3項
2. 協力学術研究団体関係						
提案 2	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	5	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本会計教育学会 ②中小企業会計学会 ※令和 8 年 5 月 29 日現在 2, 218 団体 (上記申請団体を含む)	三枝副会長	会則36条
3. 国際関係						
提案 3	令和 8 年度代表派遣について、実施計画を追加等すること	会長	6	令和 8 年度代表派遣について、実施計画の変更をする必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第21条、22条
4. シンポジウム等						
提案 4	公開シンポジウム「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第5回】育種成果の社会への橋渡しー新品種の普及と制度の課題ー」の開催について	農学委員会委員長	7	主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会 日時：令和 8 年 6 月 11 日 (木) 12:00～13:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 5	公開シンポジウム「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？～生命の連続性と栄養の関係～」の開催について	食料科学委員会委員長	9	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本繁殖生物学会 日時：令和 8 年 6 月 13 日 (土) 13:00～14:40 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 6	公開シンポジウム「日本学術会議国際光デー記念シンポジウム」の開催について	総合工学委員会委員長	11	主催：日本学術会議総合工学委員会IC0分科会 日時：令和 8 年 7 月 3 日 (金) 13:00～17:40 場所：日本学術会議講堂、ロビー (東京都港区) ※第三部承認	—	内規別表第 2

提案7	公開シンポジウム「翼がつながる世界—鳥と人の歴史・生態・未来—」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	13	主催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会 日時：令和8年7月12日（日）13:00～16:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム「エイジ・フレンドリーな地域社会の実現—住民主体・住環境・データ活用を統合する学際的アプローチ—」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	16	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同カーボンニュートラル都市分科会、環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会 日時：令和8年7月24日（金）14:00～17:00 場所：東京大学本郷キャンパスHASEKO-KUMAホール（東京都文京区）（ハイブリッド開催） ※第二部承認、第三部承認	—	内規別表第2
提案9	公開シンポジウム「木材利用促進に学術研究がいかに関与するか：木材利用って本当にいいの？」の開催について	農学委員会委員長	19	主催：日本学術会議農学委員会林学分科会 日時：令和8年7月25日（土）13:00～16:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム「材料工学中長期研究戦略」の開催について	材料工学委員会委員長	22	主催：日本学術会議材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会 日時：令和8年7月29日（水）13:00～16:45 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム「民主主義と選挙を守る—近年の我が国の政治と選挙環境に関する諸課題—」の開催について	政治学委員会委員長	24	主催：日本学術会議政治学委員会現代政治過程における課題分析・制度設計分科会 日時：令和8年8月8日（土）14:00～16:30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム「有権者は変わりつつあるのか—制度の影響と投票行動の把握—」の開催について	政治学委員会委員長	26	主催：日本学術会議政治学委員会現代政治過程における課題分析・制度設計分科会 日時：令和8年8月11日（火・祝）10:00～12:15 場所・言語：オンライン開催・英語 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム「人口減少時代の災害に強いまちづくり、インフラについて考える」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	28	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会、インフラレジリエンス分科会 日時：令和8年8月17日（月）13:00～17:40 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案14	日本学術会議東北地区会議学術講演会「未来の仕事と地方のキャリア～AI時代に地方で生きる、働く、創る～」（仮題）の開催について	科学者委員会委員長	31	主催：日本学術会議東北地区会議 日時：令和8年8月29日（土）13:00～16:40（予定） 場所：リンクステーションホール青森5F大会議室（青森県青森市堤町）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2

提案15	公開シンポジウム「地球環境変動の時代における陸域・土地利用研究の役割と展望」の開催について	環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	34	主催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会 日時：令和8年9月7日（月）13：30～17：00 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム「プラネタリーヘルス：激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上をめざして」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	37	主催：環境学委員会・健康・生活科学委員会合同 環境リスク分科会、健康・生活科学委員会 パブリックヘルス科学分科会、地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 日時：令和8年9月7日（月）13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第二部、第三部承認	—	内規別表第2

5. 後援

提案17	国内会議の後援をすること	会長	40	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨回答があったので、後援することとしたい。 ・第52回全国語学教育学会年次国際大会	—	後援名義使用承認基準3（2）ウ
件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は6月26日(金)13:30～開催予定。					41

【分野別委員会】

○委員会委員の決定（追加1件）

（法学委員会）

氏名	所属・職名	備考
江島 晶子	明治大学法学部教授	第一部会員

【常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：12名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	<p>日本会計教育学会 (https://jaaer.sakura.ne.jp/)</p>	<p>本団体は、会計教育の開発・改善・充実を目的とし、会計教育の研究・普及・提言を行うと共に、会計教育に携わる者の交流を図ることを目的とする。</p>
2	<p>中小企業会計学会 (https://jaasme.org/)</p>	<p>本団体は、中小企業会計の研究及びその普及のため、中小企業会計の研究及び実務に携わる者の連絡及び懇親を図ることを目的とする。</p>

令和 8 年度代表派遣実施計画の追加等について

以下のとおり、令和8年度代表派遣実施計画(第 397 回幹事会(令和8年2月 27 日)にて承認済)の追加等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	サイエンス 20 (S20) 2026 草案検討会議	6月 15 日 ～ 6月 16 日	ワシントン D.C. (アメリカ)	光石 衛 会長、第三部会員 (東京大学名誉教授/帝京大学先端総 合研究機構特任教授)	国際委員会	・派遣者の追加及び決定 ※現地出席予定
2	第 16 回グローバルヤング アカデミー(GYA)総会	6月 28 日 ～ 7月 3 日	ブレーメン (ドイツ)	菅野 早紀 連携会員 (青山学院大学経済学部准教授)	若手アカデミー	・派遣者の変更及び決定 ※現地出席予定 ※松山連携会員(特任)の 都合により変更。
3	国際理論・応用力学連合 (IUTAM)会員総会	7月 19 日 ～ 7月 21 日 ↓ 7月 19 日 ～ 7月 22 日	トゥールーズ (フランス)	荒木 稚子 連携会員 (東京科学大学工学院機械系教授)	機械工学委員会	・会期の変更

公開シンポジウム
「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ
【第5回】育種成果の社会への橋渡し－新品種の普及と制度の課題－」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月11日（木）12：00～13：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中、「育種」は安定した食料生産や社会課題の解決、さらには地球環境の保全に直結する重要な領域である。本ウェビナーシリーズでは、育種分野の第一線の専門家を招き、現場の課題から人材育成、知的財産、社会との関わりに至るまで、多角的な議論を行ってきた。これまでに、水産・作物をテーマとした第1回、畜産分野の育種と次世代人材の育成に焦点を当てた第2回、遺伝資源と持続可能な社会を扱った第3回、ゲノム編集技術を用いた品種育成について議論した第4回を実施している。これらに続く最終回となる第5回では、「育種成果の社会への橋渡し－新品種の普及と制度の課題－」をテーマとし、育成者権をめぐる最近の動向や海外持ち出し問題、品種登録時における特性審査業務の実際について話題提供を受け、議論を行う。

9. 次 第：

挨拶

12:00 開会の挨拶

矢野 昌裕（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業
技術総合研究機構非常勤顧問）

12:05 「種苗法の概要」

大野 善之（農林水産省輸出・国際局知的財産課種苗室次席審査官）

12:45 「特性調査業務の概要」

三國 誉征（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構種苗管
理センター試験・検査部特性調査業務課）

13:25 閉会の挨拶

磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学農学生命科学研究科教
授）

進行

矢野 昌裕（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人農業・食品産業
技術総合研究機構非常勤顧問）

磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学農学生命科学研究科教
授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？～生命の連続性と栄養の関係～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、公益社団法人日本繁殖生物学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月13日（土）13：00～14：40
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

現代社会において、「食と健康」への関心はかつてないほど高まっています。しかし、個体の栄養状態が単に本人の健康を維持するだけでなく、次世代の生命の誕生、発育、さらにはその後の繁殖能力にまで深く関与しているかについては、一般に十分に理解されているとは言えません。

本シンポジウムでは、畜産学及び繁殖生物学の研究成果が、安全な食料供給（畜産物の生産性向上）に直結するだけでなく、将来の世代の健康や能力を規定する重要な指針となることを示すとともに、家畜及び実験動物を用いた繁殖科学の最前線から、「生殖と栄養」をキーワードに、生命の連続性を支えるメカニズムを紐解きます。講演では、3人の専門家により、卵子に含まれる微量な脂質から、出生後の母乳を通じた栄養摂取、そして胎子期の環境が将来の生殖機能に及ぼす影響まで解説していただき、最新の知見を共有することで、食料生産の効率化のみならず、ヒトの生殖医療や次世代の健康増進に寄与する学術的・社会的意義を提示することを目的とします。
9. 次 第：

13：00 開催の挨拶

大澤 健司（公益社団法人日本繁殖生物学会理事長／宮崎大学農学部獣医学科産業動物臨床繁殖学研究室教授）

13：05

座長：木村 直子（日本学術会議第二部会員／山形大学大学院農学研究科教授）

講演「ほ乳動物卵に蓄えられた脂肪の不思議」

塚本 智史（国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構安全管理部課長）

13：35

座長：尾畑 やよい（東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科教授）

講演「哺乳類を特徴づける乳腺と母乳の役割」

永岡 謙太郎（東京農工大学農学研究院教授）

14：05

座長：白砂 孔明（東京農業大学農学部動物科学科教授）

講演「子牛の未来を左右する乳牛の妊娠期の栄養」

川島 千帆（帯広畜産大学生命・食料科学研究部門教授）

14：35 総括

栗田 浩（日本学術会議連携会員／公益財団法人小野薬品がん・免疫・神経研究財団
理事長）

14：40 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「日本学術会議国際光デー記念シンポジウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会 ICO 分科会
2. 共 催：国際光年協議会
3. 後 援：公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、公益社団法人日本分光学会（以上、すべて予定）
4. 日 時：令和8（2026）年7月3日（金）13：00 ～ 17：40
5. 場 所：日本学術会議講堂、ロビー（東京都港区六本木7-22-34）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
2016年、ユネスコは国際光デーを宣言し、日本学術会議ではこれを記念するシンポジウムを総合工学委員会 ICO 分科会の主催で継続して開催してきた。本年も同シンポジウムを開催し、光科学技術がもたらす未来社会や、科学と社会への分野横断的な貢献を展望するとともに、分野の次代を担う新進気鋭の若手研究者間の交流を推進する。
9. 次 第：
【第1部】
司会：馬場 俊彦（日本学術会議連携会員／横浜国立大学大学院工学研究院教授）
13:00 開会挨拶
荒川 泰彦（日本学術会議連携会員／東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任教授）
13:10 『AIを支える計算基盤と光技術の未来』
岡野原 大輔（株式会社Preferred Networks 代表取締役社長）
13:45 『フュージョンエネルギーと光』
藤岡 慎介（大阪大学レーザー科学研究所教授）

休憩（15分）（14：20～14：35）

【第2部】

司会：美濃島 薫（日本学術会議連携会員／電気通信大学大学院情報理工学研究科教授／
国際光学委員会（ICO）副会長）

14:35 『光科学による医療の新展開』

小川 美香子（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院薬学研究院教授）

15:10 『究極の望遠鏡を目指して』

井口 聖（大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台教授）

15:45 閉会挨拶

松尾 由賀利（日本学術会議連携会員／法政大学理事・副学長・理工学部教授）

16:00 若手研究者によるポスター発表

17:40 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「翼がつなぐ世界—鳥と人の歴史・生態・未来—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会
2. 共 催：京都大学生態学研究センター、京都大学野生動物研究センター
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年7月12日（日）13：00～16：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定無し

8. 開催趣旨：

鳥は、陸・海・空という多様な環境へと進出した、脊椎動物の中でも極めて特徴的な分類群です。恐竜に起源を持つその進化の歴史は長く、現在も地球上の様々な生態系の中で重要な役割を果たしながら繁栄を続けています。多くの種が昼行性で人の目に触れやすいことから、鳥は古くから人間にとって身近な存在でした。食料として利用される一方、人と協働する存在でもあり、また文化の中でも特別な位置を占めてきました。

鳥の卓越した飛翔能力と高い移動性は、単に鳥自身の生存戦略にとどまらず、種子散布や捕食関係、さらには大陸間の移動を通じた生態系のつながりなど、遠く離れた地域の自然環境にも大きな影響を及ぼしてきました。一方で現代社会においては、感染症の拡散、環境変化による個体数の減少など、鳥をめぐる様々な課題が顕在化しています。

本シンポジウムでは、鳥と人との関係を過去から現在にわたって多角的に見つめ直し、歴史的な事例から最新の研究や保全の取組までを紹介します。鳥という魅力的な生物を通して、人間と自然の関係を改めて考え、これからの時代を鳥と共に生きるための新しい視点や取組について議論する場としたいと考えています。

9. 次 第：

13:00 挨拶

村山 美穂（日本学術会議第二部会員／京都大学野生動物研究センター教授）

13:05 趣旨説明

池谷 和信（日本学術会議連携会員／国立民族学博物館名誉教授）

<前半：鳥と人の関わりのこれまで>

司会：野林 厚志（日本学術会議連携会員／国立民族学博物館グローバル現象研究部長／教授）

13:15 「世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥」

樋口 広芳（東京大学名誉教授／慶應義塾大学訪問教授）

13:35 「野生のウミウに強くこだわる理由－日本列島における鵜飼漁の歴史とワイルドライフ」

卯田 宗平（国立民族学博物館グローバル現象研究部教授）

13:55 「森をめぐるカワウと人との関わり」

亀田 佳代子（滋賀県立琵琶湖博物館館長）

14:15－14:30（休憩）

<後半：鳥と人の関わりのこれから>

司会：山崎 由美子（日本学術会議連携会員／新潟医療福祉大学心理・福祉学部心理健康学科教授）

14:30 「鳥インフルエンザとワンヘルス：ヒト・動物・環境の視点から」

渡邊 登喜子（日本学術会議連携会員／大阪大学微生物病研究所感染機構研究部門教授）

14:50 「野生復帰による人とコウノトリの関係性の再構築」

菊地 直樹（金沢大学先端観光科学研究所教授）

15:10 「ライチョウの野生復帰と腸内細菌」

牛田 一成（NPO 法人希少動物種保全科学研究センター理事長）

15:30 「生殖細胞の保存と活用による希少鳥類の保全」

金子 武人（大阪公立大学大学院獣医学研究科教授）

15:50 総合討論

松本 晶子（日本学術会議連携会員／琉球大学国際地域創造学部教授）

安田 仁奈（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
(コメンテーター)

環境省担当者（環境省野生生物課）

16：30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「エイジ・フレンドリーな地域社会の実現－住民主体・住環境・データ活用を統合する学際的アプローチ」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康・生活分科会、臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同老化分科会、土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同カーボンニュートラル都市分科会、環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会
2. 共 催：東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学未来ビジョン研究センター、広島大学大学院医系科学研究科成人看護開発学研究室、一般社団法人日本サステナブル建築協会
3. 後 援：一般社団法人日本老年医学会、一般社団法人日本老年学会、一般社団法人日本応用老年学会、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、日本介護福祉学会、日本保健福祉学会、一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センター
4. 日 時：令和 8（2026）年 7 月 24 日（金）14:00～17:00（予定）
5. 場 所：東京大学本郷キャンパス HASEKO-KUMA ホール（東京都文京区本郷 7-3-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

超高齢化が進展する我が国においては、誰一人取り残されることなく、障害の有無にかかわらず、すべての人が安心して生き生きと生活し社会参加できる社会の実現が求められる。そのためには、個人の生活機能を包括的に捉える視点に加え、環境因子への働きかけやデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が不可欠である。

また、高齢者を取り巻く環境を多元的かつデータ駆動型（data-driven）に把握し、科学的根拠に基づいた住環境（都市環境及び住宅内環境）、交通、就労環境の整備を通じて、「エイジフレンドリーシティ（Age-friendly cities and communities）」の実現を図る必要がある。そのためには、健康科学、建築工学、環境学、情報学等の学際的連携によ

り研究成果を統合し、産官学民の協働の下、イノベーションを創出することが重要である。

本シンポジウムは、本分科会がこれらの視点に基づく提案を取りまとめた「見解」の周知を図ることを目的とする。

9. 次 第：

挨拶・趣旨説明

14:00 挨拶・本分科会の活動報告と「見解」の紹介

森山 美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

◇第1部司会

玉腰 暁子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

14:05 『エイジフレンドリーシティについて』

中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

14:20 『住民と考えるエイジフレンドリーなまちづくり —小田原市における地域実践から—』

後藤 純（東海大学建築都市学部建築学科准教授／UDCOD(アーバンデザインセンター小田原) 副センター長)

14:35 『住民主体による健康長寿に向けた新たなまちづくり』

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

14:55 『広島県呉市（島嶼部）一般社団法人まめなの取り組み』

更科 安春（一般社団法人まめな Founder)

休憩（10分）（15：15～15：25）

第2セッション

◇第2部司会

田高 悦子（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院保健科学研究院教授）

15:25 『住宅内外の環境改善による高齢者の健康・生活支援』

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長）

15:45 『地域の交通と福祉の課題解決を目指す Community Drive プロジェクト ～富山県黒部市と広島県福山市における実証～』（仮）

羽鳥 達也（株式会社日建設計執行役員設計グループ代表）（仮）

16:05 『自治体保有データとオープンリソースデータの突合解析による政策立案事例』

佐藤 栄治（日本学術会議連携会員（特任）／宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科教授）

会場設営（5分）（16:25～16:30）

総合討論

◇司会

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター理事長）

16:30 総合討論

16:50 指定発言

鹿嶋 小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学 IDEC 国際連携機構プラットフォームヘルスイノベーションサイエンスセンター（PHIS）／広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

16:55 閉会の挨拶

荒井 秀典（日本学術会議第二部会員／国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長）

10. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「木材利用促進に学術研究がいかに関与するか：木材利用って本当にいいの？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会林学分科会
2. 共 催：日本学術会議環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会、環境学委員会環境政策・環境計画分科会、土木工学・建築学委員会、一般社団法人日本木材学会
3. 後 援：一般社団法人日本建築学会、環境経済・政策学会、林業経済学会、公益社団法人日本木材加工技術協会、一般社団法人日本森林学会（予定）、一般社団法人日本 LCA 学会（予定）、
4. 日 時：令和 8（2026）年 7 月 25 日（土）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

我が国では近年、気候変動対策や循環型社会の実現に向けて、建築分野での木材利用の促進が広く進められている。木材は森林という再生可能な資源から生まれ、建築物として使われている間、炭素を内部に蓄え続ける特性を持つ。このため、木材はハーベストウッドプロダクト（HWP：伐採木材製品）として、カーボンニュートラル社会に貢献する素材として期待されている。国も省エネルギー基準適合やライフサイクルカーボン算定の義務化など法制度を整備しつつあり、木材はその施策の実現に寄与する有力な材料の一つである。

一方で、実際の建築現場を見渡すと、象徴的な木材を用いた建築物は実現するものの、その取り組みが継続的に広がっているとは言い難いのが現状である。集材の仕組み、設計段階で求められる構造安全性や耐火性、遮音性、耐久性確保の手法、さらには材料や施工にかかるコストなど、多くの課題が存在している。技術的には解決可能な問題も少なくないが、経済性や長期的な維持管理への不安が、普及の大きな壁とな

っている。また、木材利用が本当に環境負荷の低減につながっているのかについても、ライフサイクル全体を見通した評価は、必ずしも十分に共有されていない。

本シンポジウムでは、木材を用いた建築物の各種性能を整理しつつ、環境負荷の定量的評価、さらには森林資源とのバランスといった、より長い時間軸での視点に焦点を当てる。木材が持つ調湿性や耐久性といった材料としての特性が、私たちの暮らしや建築物の価値にどのように結び付いているのかを丁寧に整理し、「木材利用は本当に良いのか」という率直な疑問に答えることを目指す。専門家だけでなく国民一人ひとりが理解を深め、今後の木材利用の在り方を共に考える場とすることを目的とする。

9. 次 第：

司会：恒次 祐子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:00 開会挨拶

杉山 淳司（日本学術会議第二部会員／京都大学名誉教授）

13:05 趣旨説明

五十田 博（日本学術会議連携会員／京都大学生存圏研究所教授）

13:15 「実務者からみた木造建築 社会実装に必要なこと」

小林 道和（株式会社竹中工務店経営企画室サステナビリティ推進部
シニアチーフエキスパート）

13:40 「HWP の炭素貯蔵量と建築利用」

加用 千裕（東京農工大学グローバルイノベーション研究院教授）

14:05 「建物の LCA－木造建築と他構造との比較－」

小林 謙介（県立広島大学生物資源科学部教授）

14:30-14:40 休憩

14:40 ディスカッション

ファシリテータ：山崎 真理子（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

小林 道和（株式会社竹中工務店経営企画室サステナビリティ推進部
シニアチーフエキスパート）

加用 千裕（東京農工大学グローバルイノベーション研究院教授）

小林 謙介（県立広島県立大学生物資源科学部教授）

高田 克彦（秋田県立大学木材高度加工研究所教授）

恒次 祐子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

15:50 閉会挨拶

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学農学生命科学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「材料工学中長期研究戦略」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年7月29日（水）13：00～16：45
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

これまでの報告「材料工学ロードマップのローリング」（2017年8月、2023年9月）に加えて、第三部でまとめた報告「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ」（2011年8月）の「材料工学分野その1～その4」及び報告「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ2014（夢ロードマップ2014）」（2014年9月）の「材料工学分野Part1、Part2」を参照しつつ、30年後の材料工学を支える基盤学術として必要な課題に関して、提言「未来の学術振興構想（2023年版）」（2023年9月）のグランドビジョンに挙げられた課題から、材料工学中長期研究戦略分科会では材料工学に関係するものを抽出し、「材料デザイン革新理論と技術」、「材料プロセス理論と技術」、「材料解析理論と技術」、「材料社会実装理論と技術」、「持続可能社会・環境」の研究を深化させ、統合するための方策、必要性、意義について討論する。今年4月に発出の報告「未来の学術振興構想に基づく材料工学における中長期研究戦略」も踏まえ、今後の学術研究戦略を展望する。

9. 次 第：

司会：中野 貴由（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻教授）
岸田 晶夫（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

13:00-13:05 開会挨拶・趣旨説明

埴 隆夫（日本学術会議第三部会員・材料工学中長期研究戦略分科会委員長／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学大学院医学研究科客員教授）

13:05-13:25 「2017 年報告：社会インフラ／グリーン・エネルギー分野材料工学ロードマップのローリング」
松宮 徹（日本学術会議連携会員（特任）／元大阪電気通信大学監事）

13:25-13:45 「デバイス／医療・バイオ材料分野材料工学ロードマップのローリング(仮)」
筑本 知子（日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長・教授）

13:45-14:25 「材料デザイン革新理論と技術（生成 AI 分野との連携の視点より）」
小山 敏幸（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人物質・材料研究機構造材料研究センター計算組織設計グループ NIMS 招聘研究員）

14:25-15:05 「材料プロセス理論と学術（仮）」
尾崎 由紀子（日本学術会議第三部会員／大阪大学接合科学研究所招へい教授）

休憩 15 分（15:05-15:20）

15:20-16:00 「材料解析理論と技術（仮）」
小出 康夫（日本学術会議連携会員・材料工学中長期研究戦略分科会副委員長／名城大学理工学研究科教授）

16:00-16:40 「材料分野における持続可能社会・環境」
杉浦 夏子（日本学術会議連携会員・材料工学中長期研究戦略分科会幹事／日本製鉄株式会社技術開発本部鉄鋼研究所リーディングリサーチャー）

16:40-16:45 閉会挨拶
松下 伸広（日本学術会議連携会員・材料工学中長期研究戦略分科会幹事／東京科学大学副理事・物質理工学院教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「民主主義と選挙を守る—近年の我が国の政治と選挙環境に関する諸課題」
の開催について

1. 主催：日本学術会議政治学委員会現代政治過程における課題分析・制度設計分科会
2. 共催：文部科学省科学研究費基盤研究(A)「大規模政治意識調査『JESⅧ』による現代民主主義体制の理解・改善・課題解決」
3. 後援：なし
4. 日時：令和8（2026）年8月8日（土）14：00～16：30
5. 場所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
本シンポジウムは、近年の日本の政治や選挙を対象に、制度・選挙事務等に影響される選挙環境、SNS や選挙活動等に影響される情報環境、政党・連立枠組みの変化や解散時期等に影響される政治環境等に関する課題について議論し、今後の改善の方向性を提起する。
9. 次第：
 - 14：00 開会挨拶
河野 武司（日本学術会議連携会員／帝京大学法学部政治学科教授）
 - 14：05 報告「『自民一強』は続くのか？—政党システムの流動化が意味するもの—」
内山 融（日本学術会議連携会員／東京大学大学院総合文化研究科教授）
 - 14：30 報告「第51回衆議院議員選挙の分析」
小林 良彰（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／九州ルーテル学院大学学事顧問）
 - 14：55 討論・質疑
西川 伸一（日本学術会議連携会員／明治大学政治経済学部教授）
 - 15：15 報告「公選法における基本原則と実態—投票当日投票所投票主義を中心として—」
井田 正道（日本学術会議連携会員／明治大学政治経済学部専任教授）
 - 15：40 報告「現代の選挙における選挙ガバナンスの現状と課題」

堤 英敬（日本学術会議連携会員／香川大学法学部教授）

16：05 討論・質疑

慶 済姫（東海大学政治経済学部政治学科准教授）

16：25 閉会挨拶・司会

谷口 尚子（日本学術会議第一部会員／慶應義塾大学法学部政治学科教授）

16：30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「有権者は変わりつつあるのか ―制度の影響と投票行動の把握―」
の開催について

1. 主催：日本学術会議政治学委員会現代政治過程における課題分析・制度設計分科会
2. 共催：文部科学省科学研究費基盤研究(A)「大規模政治意識調査『JESⅧ』による現代民主主義体制の理解・改善・課題解決」
3. 後援：なし
4. 日時：令和8（2026）年8月11日（火・祝）10：00～12：15
5. 場所・言語：オンライン開催・英語
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定無し

8. 開催趣旨：

近年の政治・社会・経済環境の変化は、有権者の意識や行動にも大きく影響していると考えられる。都市―非都市部間の人口偏在は、選挙の区割りや「一票の平等性」の問題をより困難にしている。有権者の投票を支えるために、投票制度も多様化している。またこうした環境が有権者の投票行動に与える影響も注目される。そして、有権者への影響等を適切に把握し発信するための社会調査の改善も重要である。本シンポジウムは、これらの課題や今後のあり方について情報を共有する。

9. 次第：

- 10：00 司会
築山 宏樹（慶應義塾大学法学部政治学科教授）
- 10：05 報告 The Unfairness of Fairness: A Note on the Excessive Pursuit of the "One Person, One Vote" Principle
鎌原 勇太（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院都市イノベーション部門准教授）
- 10：25 報告 Who Uses Early Voting? A Comparative Study of Japan and Australia
中谷 美穂（日本学術会議連携会員／明治学院大学法学部政治学科教授）
- 10：45 討論・質疑
尾上 成一（慶應義塾大学法学部特任助教）

- 11 : 05 報告 Does Social Media Use Have a Greater Impact on Voters' Favorites Among Political Leaders Than on Political Parties?
The Evaluation of Voters in Recent Japanese Elections
谷口 尚子 (日本学術会議第一部会員／慶應義塾大学法学部政治学科教授)
- 11 : 25 報告 Correcting Nonresponse and Social Desirability Bias in Online Surveys
原田 勝孝 (東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻准教授)
- 11 : 45 討論・質疑
築山 宏樹 (慶應義塾大学法学部政治学科教授)
- 12 : 15 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「人口減少時代の災害に強いまちづくり、インフラについて考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会、土木工学・建築学委員会インフラレジリエンス分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会
4. 日 時：令和8（2026）年8月17日（月）13：00～17：40
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

2011年の東日本大震災、2024年能登半島地震の経験を経て、人口減少化が進む地域においては「災害前に戻す」災害復興の在り方に課題が生じている。本シンポジウムでは、人口減少という現実を見据えたうえで、地域に最適な復興後のイメージと将来像を事前に議論し策定しておく「事前復興」の重要性や、災害の有無に関わらず描く、人口減少を見据えた地域のランドデザインについて議論する。2025年11月に発出された見解「能登半島地震・豪雨災害の教訓に基づく広域地域災害への備え」が防災に焦点を当てた見解であるのに対し、本企画は人口減少地域の長期的なまちづくり、インフラ整備のありかたに重点をおいて議論する公開シンポジウムであり、日本学術会議との共同開催を通して、各組織の災害・防災研究や地域の活動を通して、学術と社会をつなぐためのさらなる強化を目指すものである。

9. 次 第：

13:00-13:10 主旨説明

多々納 裕一（日本学術会議第三部会員／京都大学防災研究所社会防災研究部門教授）

13:10-13:50 基調講演

- ・2011年東日本大震災後の復興の経験とこれからの事前復興：
 姥浦 道生（東北大学災害科学国際研究所災害人文社会研究部門空間デザイン戦略研究分野教授）

13:50-14:00 （休憩 10 分）

14:00-15:15

第一部：人口減少地域のまちづくりや事前復興のありかた

- ・歴史的視点より見た地方創成戦略：
目黒 公郎（日本学術会議連携会員／東京大学大学院情報学環長／学際情報学府長）
- ・災害の経験から見た人口減少地域の復興と課題：
片桐 由希子（日本学術会議連携会員／金沢工業大学工学部環境土木工学科准教授）
- ・法学から見た所有者不明土地・空き家、集団移転に関する施策と課題：
西 希代子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院法務研究科教授）
- ・エンジニアリングから見た地域の建築耐災害性能の担保と方策：
久田 嘉章（日本学術会議連携会員／工学院大学建築学部まちづくり学科教授）
- ・過疎地における生活交通確保の課題とその方策：
松尾 美和（日本学術会議連携会員／神戸大学経済経営研究所教授）

15:15-15:25 （休憩 10 分）

15:25-16:40

第二部：人口減少地域のインフラ計画と維持体制のありかた

- ・人口減少下のインフラマネジメントの課題とその対処法：
小林 潔司（日本学術会議連携会員／京都大学名誉教授／京都大学経営管理大学院特任教授・客員教授）
- ・越境しあうインフラガバナンスを実現するために：
高橋 良和（日本学術会議連携会員／京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授）
- ・インフラ健康診断書 2024 から見えるインフラの現状と課題：
中村 光（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻教授）
- ・少子高齢化時代のインフラに求められる機能とは：
松田 曜子（日本学術会議連携会員／京都大学防災研究所巨大災害研究センター准教授）
- ・持続可能なインフラマネジメントの実現委に向けて：
大西 正光（日本学術会議連携会員（特任）／京都大学大学院工学研究科教授）

16:40-16:50 （休憩 10 分）

16:50-17:30

第三部：パネルディスカッション

17:30-17:40

まとめ：竹内 徹（日本学術会議第三部会員／東京科学大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認
11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議東北地区会議学術講演会
「未来の仕事と地方のキャリア ～AI時代に地方で生きる、働く、創る～」 (仮題)
の開催について

1. 主催：日本学術会議東北地区会議
2. 共催：学校法人青森山田学園青森大学、国立大学法人東北大学
3. 後援：未定
4. 日時：令和8（2026）年8月29日（土）13：00～16：40（予定）
5. 場所：リンクステーションホール青森5F大会議室（青森県青森市堤町1-4-1）
（ハイブリッド開催）※後日オンデマンド配信予定
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：同日10：00～11：30に科学者との懇談会を開催予定

8. 開催趣旨：

生成AIをはじめとする情報技術の急速な進展は、あらゆる産業・職業のあり方を変えつつある。一方、地方においては少子高齢化・人口流出が深刻であり、特に東北・青森地域では若い理系人材の都市部流出が長年の課題となっている。しかし、AIの普及・デジタル化の進展は同時に、地方でのスタートアップ創出、リモートワーク、研究・技術人材の活躍フィールドを大きく広げる可能性をもたらしている。

また、核融合・介護・看護・医療など、地方の社会課題と直結した分野でのキャリア形成や、東北復興から生まれる新産業の担い手育成も注目される。さらに、女性が理系・技術系キャリアを選択しやすい環境整備は、地域の持続的発展において不可欠な要素となっている。

本講演会では、高校生・保護者・大学生・教員を主な対象として、研究者・起業家・産業界の第一線で活躍する講師を迎え、AI時代における地方でのキャリアの可能性と魅力を多角的に紹介する。

9. 次第：

- 1) 13:00～13:05 開会挨拶
日比谷 潤子（日本学術会議副会長、国際基督教大学名誉教授）

2) 13:05～13:10 開催趣旨の説明

下條 真司（日本学術会議第三部会員、青森大学ソフトウェア情報学部教授）

*司会進行：（調整中）

3) 講演（13:10～14:30）

I) 13:10～13:30 基調講演

北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科研究科
長補佐・教授）

「大学発スタートアップで描く未来 —研究が社会を変えるとき—（仮）」

II) 13:30～13:50 地方での起業・ビジネス

（調整中）

「地方でビジネスを創る —地域に根ざしたキャリアの形—（仮）」

III) 13:50～14:10 企業・大学・多様なキャリア

浅川 智恵子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学大学院理工学研究
科特任教授、日本科学未来館館長、Carnegie Mellon
University IBM 特別功労教授）

「AI時代の多様なキャリアパス —企業・大学・社会をつなぐ—（仮）」

IV) 14:10～14:30 核融合事例

（調整中）

「地方から世界へ —核融合が変える地域の未来—（仮）」

（14:30～15:00 休憩）

4) 15:00～16:35 パネルディスカッション

「地方におけるキャリアとダイバーシティ ～AI時代を生き抜くために～」

パネリスト（調整中）：

・北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科研究科長
補佐・教授）

・浅川 智恵子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学大学院理工学研究科
特任教授、日本科学未来館館長、Carnegie Mellon University
IBM 特別功労教授）

・核融合（調整中）

- ・ 木村 直子（日本学術会議第二部会員、山形大学大学院農学研究科教授）
 - ・ 大場 みち子（日本学術会議第三部会員、京都橘大学デジタルメディア学部デジタルメディア学科教授）
 - ・ 学生（青森大学、弘前大学等、調整中）
- コーディネーター：石井 重成（青森大学・准教授）

5) 16:35～16:40 閉会挨拶

五十嵐 和彦（日本学術会議第二部会員・日本学術会議東北地区会議代表幹事、
東北大学大学院医学系研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「地球環境変動の時代における陸域・土地利用研究の役割と展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：Global Land Programme (GLP) 日本拠点オフィス、地理学連携機構
4. 日 時：令和 8（2026）年 9 月 7 日（月）13：30～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

気候変動、生物多様性の喪失、土地劣化、資源循環の停滞など、地球環境をめぐる諸課題は相互に関連しながら進行している。これらの課題は、大気・海洋・水圏と連動しつつ、農牧地、森林、草原、湿地などの陸域において具体化する。陸域は、自然プロセスと社会経済活動が交錯する場として、地球環境変動の結節点を形成している。土地利用は、その結節点における主要な人間活動であり、環境変化の方向性を規定する重要な要素である。

近年の国際的議論でも、気候、生物多様性、土地劣化等を相互に関連する構造的課題として捉え、陸域・土地利用をその接点に位置づける視点が強調されている。土地システムを人間-環境システムとして捉える Global Land Programme (GLP) の研究は、こうした統合的理解を支える基盤を形成してきた。

本シンポジウムでは、多地域の事例から自然変動・社会経済変動・制度が交錯する土地システムの構造を整理し、土地劣化と回復をめぐる課題とガバナンスを検討する。そのうえで、陸域システム・土地利用研究が複合化する地球環境課題にいかに応え得るのかを議論し、今後の研究の方向と社会的役割を展望する。

9. 次 第：

13:30 開会挨拶

春山 成子（三重大学名誉教授）

13:35 趣旨説明

大黒 俊哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

セッション1：講演「地域からみる土地システムの変化と社会・自然の構造」

サブセッション1-1：自然変動と生態系応答

13:40 「フェノロジーと土地利用土地被覆の変化」

奈佐原 顕郎（筑波大学生命環境系准教授）

13:55 「乾燥地の植生とダスト発生：放牧地管理からみる大気と陸域の繋がり」

甲野 耀登（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）

サブセッション1-2：社会経済変動と土地利用再編

14:10 「ニジェールにおける都市ごみを使った緑化—都市と農村の有機物循環」

大山 修一（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究部教授／京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

14:25 「アフリカ都市周縁部の土地利用再考—建材生産・供給の場としての周縁部という視点」

中垣 太樹（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程）

サブセッション1-3：土地劣化と回復をめぐる制度と地域社会

14:40 「森と人のつながりの共創」

石原 正恵（京都大学フィールド科学教育研究センター准教授）

14:55 「「保護区」は何を保護しているのか？—インドの経験から」

木本 浩一（関西学院大学ハンズオン・ラーニングセンター教授）

15:10 「牧養力評価と放牧管理の制度的課題—気候変動や放牧強度の影響を踏まえて」

王 勤学（国立研究開発法人国立環境研究所地域環境保全領域特命研究員）

休憩（15分）（15：25～15：40）

セッション2：総合討論「陸域システム・土地利用研究の到達点と次の課題」

15:40 パネリスト：

柿沼 薫（東北大学学際科学フロンティア研究所准教授）

セッション1の講演者

司会：大黒 俊哉（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:35 総括コメント

三枝 信子（日本学術会議副会長／国立研究開発法人国立環境研究所理事）

大崎 満（北海道大学名誉教授）

16:55 閉会挨拶

氷見山 幸夫（北海道教育大学名誉教授）

17:00 終了

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「プラネタリーヘルス：激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上をめざして」
の開催について

1. 主 催：環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
2. 共 催：一般社団法人プラネタリーヘルスアライアンス日本ハブ（予定）
3. 後 援：（関連学会・関連協会・関連シンクタンク、その他、検討）
4. 日 時：令和8（2026）年9月7日（月）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

産業革命以降、人間活動の拡大により、気候変動や生物多様性の損失、環境汚染が加速し、地球環境のレジリエンスが低下した結果、これまでにない規模と進行の速さで人類の健康リスクが増大している。人類が地球の自然システムに攪乱をもたらしてきた諸活動が人間の健康及び地球上のすべての生命に及ぼす影響を把握・理解するとともに、地球環境の限界の中で人間の健康とウェルビーイングを維持・向上させることを目指す統合的アプローチがあり、それは「プラネタリーヘルス」と呼ばれる。激変する地球環境にあつて人間の健康やウェルビーイングが複雑で深刻な影響を受けることをふまえると、課題解決を志向した実践的取り組みを超学際的に推進し、それを社会的なムーブメントへと発展させていくことは急務である。

プラネタリーヘルスを基軸とした社会変革を進めるためには、健康を明確なアウトカムとして位置づけるとともに、科学的知見、経済合理性、社会的価値を統合的に捉え、意思決定に適切に反映していくことが求められる。一方で、科学的知見の蓄積が進んでいるにもかかわらず、それが十分に政策形成や社会実装に結びついていないという課題、いわゆる「実装ギャップ」が依然として存在する。この課題を克服するためには、研究段階から政策や社会実装を見据えた共創的アプローチが不可欠であり、学術、行政、産業界、市民社会が連携しながら知見を共有し、実装可能な解決策へとつなげていく必要がある。

日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会は、プラネタリーヘルスに関わる分野を超えた共通基盤を示すことを目的として、報告「プラネタリーヘルス：激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上にむけて」をとりまとめた。

本シンポジウムでは、プラネタリーヘルスの概念と蓄積された知見、多様な取り組みと視点について理解を深めるとともに、システム変革の加速にむけて「実装ギャップ」をどのようにうめていくか、学術分野の役割と産官学民の叡智を融合させる道筋について議論を行う。

9. 次 第：

13:00 開会挨拶

三枝 信子（日本学術会議副会長、日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人
国立環境研究所理事）

13:10 趣旨説明

中村 桂子（日本学術会議連携会員、東京科学大学名誉教授）

■ 第1部：エビデンスと現状認識（13:20-14:10）

座長（玉腰 暁子（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院医学研究院教授））

13:20 基調報告「プラネタリーヘルス：激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上にむけて」（日本学術会議報告の概要）

橋爪 真弘（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学
教授／長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授）

13:40 政府の取り組み

- 厚生労働省
- 環境省
- 農林水産省

■ 第2部：研究から実装へ（14:10-14:55）

座長（小口 高（日本学術会議第三部会員、東京大学空間情報科学研究センター教授））

14:10 「Urgency for Change: プラネタリーヘルス研究から実装への展開」

サミュエル・マイヤーズ（プラネタリーヘルスライアンス創設理事長、ジョンズ
ホプキンス大学プラネタリーヘルス研究所所長）

14:30 「プラネタリーヘルス研究から産学連携の共創へ」

五十嵐 圭日子（東京大学プラネタリーヘルス研究機構機構長）

14:50 「プラネタリーヘルス国際会議 2027 に向けて」

（講演者調整中）

休憩（10分）（14:55-15:05）

■ 第3部：実装ギャップをどう埋めるか（15:05-16:40）

パネルディスカッション

座長（中村 桂子（日本学術会議連携会員、東京科学大学名誉教授））

15:05 ①生物多様性と健康に関する研究から実装へ

山野 博哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

15:15 ②ワンヘルスの研究から実装へ（仮題）

石塚 真由美（日本学術会議連携会員、北海道大学理事／副学長）

- 15:25 ③医療システムの脱炭素、資源循環の研究から実装へ
南齋 規介（国立研究開発法人国立環境研究所資源循環領域長）
- 15:35 ④社会構造と産業構造から考える実装ギャップ
藤井 健吉（日本学術会議連携会員、花王株式会社研究開発部門研究主幹／研究
戦略・企画部部長）
- 15:45 ⑤（調整中）
- 15:55 ⑥（調整中）
- 16:05 総合討論
①～⑥ スピーカー、五十嵐 圭日子、橋爪 真弘
- 16:40 まとめ
- 16:50 閉会挨拶
磯 博康（日本学術会議副会長、日本学術会議第二部会員、国立健康危機管理研究
機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任
補佐）
10. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認
11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第52回全国語学教育学会年次国際大会

主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会

期間：令和8年11月20日（金）～11月22日（日）

場所：愛知県産業労働センター「ウインクあいち」（愛知県名古屋市）

参加予定者数：約1,350名

申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会 代表者 金子 クレア

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部承認

○今後の予定

●幹事会

第402回幹事会	令和8年6月26日(金)	13:30から
第403回幹事会	令和8年7月17日(金)	13:30から
第404回幹事会	令和8年7月31日(金)	13:30から
第405回幹事会	令和8年8月21日(金)	13:30から
第406回幹事会	令和8年9月3日(木)	13:30から
第407回幹事会	令和8年9月18日(金)	13:30から

●総会

第197回総会	令和8年8月6日(木)～7日(金)
第198回総会	令和8年10月1日(木)～3日(土) (予定)